



滋賀県は日本における書の聖地です。平安時代の三筆の一人・嵯峨天皇の代表作である国宝「光定戒牒」は比叡山延暦寺の秘宝であり、江戸幕府の公式書体となった「御家流」の完成者は、近江出身の建部賢文でした。また現代の書文化を方向づけた「明治の三筆」のうち、日下部鳴鶴（彦根藩）、巖谷一六（水口藩）の二人までが滋賀県出身です。さらに古経典の名品として知られる国宝法華經（竹生島經）や国宝大般若經（長屋王願經）などが伝えら

■ 書の博物館「観峰館」（東近江市）

企画展で近江ゆかりの書画



観峰館＝東近江市五箇荘竜田町で

れ、和紙や硯、筆、墨など伝統的な書の道具（文房四宝）も生産してきました。日本屈指の書の博物館である「観峰館」が東近江市にあることにも、なるほどとみざるでしよう。観峰館で現在開催中の地域連携企画展「滋賀限定！近江ゆかりの書画」（11月24日

まで）では、そうした滋賀県の書文化の魅力を存分に楽しんでもらえます。

観峰館は休館中の滋賀県立琵琶湖文化館とのコラボ企画で、主に文化館の収蔵品から書の名品や地域ゆかりの文化財を選んで展示しています。重要文化財の寂室元光遺稿（永源寺蔵）や

王花蔭を忽秋霜一瞬朝暉夕陽
休説世間人半劇観来造物亦多忙
丁巳三月 滋賀県立琵琶湖文化館蔵 書 瀧沢栄一

瀧沢栄一の書「琵琶湖文化館蔵」

また、文化館コレクションの中から近世・近代の名筆を厳選して公開しています。最近再発見されて話題を呼んだ西郷隆盛の自筆書簡を、ライバル大久保利通のダイナミックな書とともに展示しています。新一万円札の肖像画となった瀧沢栄一が自作の漢詩を美文字で書き上げた書にも、ぜひ注目してください。瀧沢は先祖が三井寺ゆかりの新羅三郎で、みずからも延暦寺の顧問でした。若き日に義兄の尾高惇忠から陽明学を学んで中江藤樹を尊崇し、高島市藤樹神社の創建に力



これまでの「しが旅のススメ」はこちら

古経典から近代の書まで、さまざまな書の名品に触れて、背景にある豊かな近江の歴史を楽しんでください。（県文化財保護課 井上優）

◇

【アクセス情報】▽電車・バス JR能登川駅から近江鉄道バス「金堂竜田口」下車徒歩15分、近江鉄道五箇荘駅下車徒歩15分▽自動車 名神高速彦根インターチェンジ（IC）から国道8号で南西約16キロ、名神高速竜王ICから国道8号で北東約16キロ